

研究主題等 「地理総合」指導と評価の一体化

～教材作成と評価規準の共有～

I 団体の概要

東京都地理教育研究会は、都立高校で地理を担当する教員の団体として、年3回の授業研究（うち1回は中学校の授業を見学）と年2回の巡検、GIS研修会等を中心に、授業力の向上や教材の共有化を目指して活動をしている。

全国地理教育研究会とも連携し、全国大会の企画・運営等の事務部門も担当している。令和4年度は全国大会を東京主催で8月に開催した。1日目はオンラインでの開催としたが、2日目にはJICA地球ひろばの協力を得て、SDGsに関するワークショップを実施し、3年ぶりに対面での大会となった。

令和3年度よりTeams上に都地研チームを作成した。授業で使える統計資料や各種ファイル、都地研GISスタンダード（地理情報システムの教材化）を共有するなど、会員間での情報交換や教材、資料の共有化を進めている。

II 研究の目的

今年度より履修が開始された新科目「地理総合」に関して、「知識理解」から「知識活用、課題・解決型」の学習への授業構築に向けて、地図とGISの活用、国際理解と国際協力、防災と持続可能な社会の構築という大項目を柱にした指導の実践と共有、評価の方法の構築を図る。

III 研究の方法

(1) 授業研究の活用

3回の授業研究での授業実践を基に、地理総合の教材、教授内容の確認と評価の方法を検討する。

(2) 連携研修の活用

東京都教職員研修センター「教科等教育課題研修」の連携研修を実施し、受講者の反応を考察する。

(3) 講演・巡検の活用

新しい題材の教材化を図る。

Ⅳ 研究の内容

- (1) 3回の授業研究では、個人端末の活用、生徒による発表と相互評価、少人数でのワークなど三様の授業実践が行われた。生徒の活動記録や回収など Teams の実践的な活用が検討会でも取り上げられた。
- (2) 一人1台端末の活用をテーマに指導教諭が講師となって9月に連携研修を行った。歴史など他科目専攻の教員の参加も多かったが、歴史的内容でのGISの活用なども紹介し、参加者から高い評価を受けた。
- (3) 地理院地図を教材として活用するために、国土地理院に講師を派遣していただいて講習会を行った。防災教育の教材作成を目的に、関東大震災を主題に東京都慰霊堂、神田周辺の震災遺構巡りを実施した。



巡検で訪れた東京都慰霊堂の講堂(上)と公園内に展示されていた関東大震災の遺物(右)

Ⅴ 研究の成果と課題

地理総合は、生徒の活動を主体とする科目だと再認識する機会となった。問いを基に生徒が必要となる情報を収集し、多面的多角的に分析してアウトプットまでさせる教材を準備し、教員が頑張っただけで教えるのではなく、生徒自らが頑張った内容と姿勢を評価することが理想となろう。その中で一人1台端末の活用や評価への適用などで有効な導入の研究を続けたい。しかし、学習指導要領の主旨と教科書の乖離、授業現場での旧科目との違いの認識、大学入試問題への対応など、新しい授業展開を構築するために検討すべき点は多い。

<連絡先>

団体名		東京都地理教育研究会
代表者	所属	東京都立王子総合高等学校
	職 氏名	校長 榎野 治和
	連絡先	03-3576-0602
事務局	所属	東京都立青山高等学校
	職 氏名	主任教諭 白川 和彦
	連絡先	03-3404-7801

研究主題 新たな学習指導要領の実施に向けた、科目間相互の連携と 史・資料や図版等を活用した授業の工夫

I 団体の概要

本研究会は東京都で歴史教育に携わる学校教職員で組織され、会員相互の歴史教育研究を通じて、生徒並びに社会一般の人々に歴史の見方・考え方を正しく理解させることによって社会の発展に貢献することを目的としている。主な活動として、大学教授等を招いた講演会。年4回にわたる授業研究会。博学連携など、新しい指導法の確立に向けた教科指導法研究会。大学入試検討委員会。年2回都内近郊を中心とした史跡見学を実施している。また、全国歴史教育研究協議会、関東歴史研究協議会などの研究会との連携を図りながら、全国の歴史教育に携わる方々と交流を深め、生徒にとってより良い歴史教育となるように日々研鑽と情報発信を行っている。

II 講演会

6月に行われた講演会では、岩手大学准教授の麻田雅文氏による講演が行われた。近年のロシアによるウクライナへの侵攻に関して、現在報道されている内容を歴史的背景からより深く解説してもらい、生徒の興味・関心が高まるような授業に活用できそうな内容を御教示していただいた。「歴史総合」が新設され、来年度には探究科目が本格実施される。そこで、12月には、日本女子大学名誉教授の成田龍一氏を迎えて、歴史総合の第一人者の立場から、探究科目とどう接続させるかに関して、御講演していただく予定である。教育現場での実際の状況に関しても意見交換を踏まえながら、今後どのように取り組むべきか考察していきたい。

III 授業研究

今年度は研究授業が4回実施された。新学習指導要領に伴い、今年度から「歴史総合」が実施され、来年度は「日本史探究・世界史探究」が実施されることを踏まえて、各担当授業者が、史資料を活用した深い学びや、単元を通観する問いや観点別評価を踏まえ、ICT機器を活用した新たな振り返りの授業実践等多岐わたる授業実践を行った。様々な課題は見えたものの、新しい科目名となり、歴史教育が大きく転換する形となった今、多くの先生方と一緒に授業の在り方について意見を交流できたことは大きな成果といえる。

IV 大学入試検討委員会

大学入試問題検討委員会は、日本史部会と世界史部会に分かれて活動している。毎年発刊される入試問題をメンバーで分担して研究し、高等学校における標準的な学習内容に照らし合わせて、適切な出題がなされているかどうかを、高校教員の立場から分析している。7月もしくは8月に「進学指導研究会」という形式で、詳細な活動報告を実施できるよう工夫している。今後は新学習指導要領に基づいた新たな形式の入試問題が増えることが予想されるため、本委員会の存在意義はますます大きなものになると考える。

V 教科指導法研修

教科指導法研修では、歴史教育における教材開発や博学連携など外部機関との連携を図り、授業力向上並びに、生徒の新たな学びの場を創設することを目的としている。今回、西国分寺にある東京都公文書館にて、博学連携を踏まえた研修を実施した。今回の研修に関しては、社会科の教員だけでなく、国語科など他教科の教員にも参加していただき、公文書の仕組みや、創設された経緯などを分かりやすく学ぶことができた。研修の中で興味深かったのは、公文書の保管方法の説明や、公文書を利用した教材開発方法であった。新学習指導要領に基づいた授業実践では、史資料の活用が非常に重要であり、この研修から新たな知見を広げることができた。

VI 史跡見学

今年度の史跡見学は、11月13日（日）に「北里柴三郎と渋沢栄一～新紙幣の顔となった人物のゆかりの地を訪れて～」をテーマに実施された。北里柴三郎、津田梅子、渋沢栄一に関して、北里柴三郎記念館を始めとして、津田梅子関連の史跡や、貨幣博物館などを訪れ、学芸員の方からの詳しい解説を受けて、新紙幣の顔をテーマとした教材教養をより深めることができた。来年の3月には、皇居周辺を巡る史跡見学を予定しており、資料を活用した深い学びの実践につながるよう進めていく。



【左は常磐公園の渋沢栄一像】

IV 成果とまとめ

コロナ禍という制限のある中で、東京都の高等学校における歴史教育の発展のために、様々な取り組みを行うことができた。来年度は、世界史探究・日本史探究が始まる中で、今年度から始まった歴史総合とどう接続していくかについて、先進的な取り組みを紹介しつつ、各会員の来年度に向けた現時点での取組を基に議論を交わしながら進めることができた。

課題として、コロナ禍という観点から、教科指導法研修や史跡見学など多くの活動に制限がかかっており、充実した活動にしていくことが厳しい部分もあったので、オンライン等をさらに活用しながら、様々な状況下でも実施できるよう取り組みを進めていきたい。

以上を踏まえ、来年度より本格実施の新学習指導要領に基づいて授業実践を進めていく東京都の地理歴史科の教員にとっての懸け橋となれるよう今後とも研鑽を深めていきたい。

<連絡先>

団体名		東京都歴史教育研究会
代表者	所属	東京都立葛西南高等学校
	職 氏名	校長 関山 勝之
	連絡先	03-3687-4491
事務局	所属	東京都立武蔵野北学校
	職 氏名	主任教諭 細川 貴之
	連絡先	0442-55-2071

研究主題等 新学習指導要領で求められる公民科教育の資質・能力と指導方法 ～新科目「公共」の指導の在り方を中心に～

I 団体の概要、研究の目的

【団体の概要】

前身の研究会から70年余りの歴史をもち、主として「倫理」「政治・経済」「現代社会」「（新学習指導要領での）公共」についての会員相互の研究を通して、東京都の公民科・社会科教育の振興を図ることを目的としている。

現在の研究会の活動としては、年数回の研究会を行うとともに、官民間問わず様々な外部団体と連携して公民科教育の発展に取り組んでいる。また、研究の内容を年1回、研究紀要としてまとめ、全都立高等学校等に配布している。

II 取組内容、成果、課題

【研究の目的（研究テーマ）】

- ・新しい学習指導要領と同解説を踏まえた授業法の研究、開発及び改善を目指す。
- ・大学入学共通テストの研究・分析を通して生徒の学力向上に資する授業の改善、並びに大学受験に係る指導方法の改善を目指す。

↓

【研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容】

- ・新しい学習指導要領の公民科新科目「公共」における指導方法について
→特に、指導の在り方、観点別評価の導入方法について研究を行った。
- ・大学入学共通テストに向けた各学校での取組について

- ・研究授業、講演会、研修会及び夏季研修会の実施（合計で年4回程度）

【例年の研究授業】

通常の研究授業に加え、税務署等の外部機関と連携した授業を実施

【今年度の講演会、研修会】

- ・「公共」の授業に向けた指導案の検討」（研修会）
- ・大学入学共通テスト解析会（同）
- ・全国公民科・社会科教育研究会全国大会（東京大会）



【成果】

- ・昨年度に続き、コロナ禍で限られた研究会の開催であったが、その中でも各学校での取組を研究し、合わせてオンライン授業での取組なども共有することで、研究活動を継続していくことができた。
- ・3年ぶりとなる対面での全国研究大会（ハイブリット形式）を開催できた。

【課題】

- ・公民科は各校1名ないしは2名の配置となっており、若手の教員でも悩みを抱え込みやすい教科である。本会は近年、東京都の教員の採用増加に伴い若手・中堅の先生方が増加してきたが、多くの先生方の参加を促し、“横のつながり”を作り上げていくことが継続的な課題である。

Ⅲ 令和4年度全国公民科・社会科教育研究会全国大会（東京大会）

【開催概要】

1. 期日

令和4年7月28日（木）、29日（金）

2. 会場

東京都立豊島高等学校 視聴覚ホール 他

3. 大会主題

「新学習指導要領で求められる公民科教育の資質・能力と指導方法」

4. プログラム

- 記念講演 与良 正男 氏（毎日新聞社論説室 専門編集委員）
- 講演 樋口 雅夫 先生（玉川大学教育学部 教授）
- 教科調査官講話（磯山恭子、飯塚英彦両教科調査官）
- シンポジウム「18歳成年年齢を受けて教育現場に求めたいこと」
- シンポジスト
 菊地 英理子 氏（法務省司法法制部司法法制部部付検事）
 中川 壮一 氏（消費者庁消費者教育推進課課長補佐）
 金井 壯太 氏（公益財団法人明るい選挙推進協会調査広報部主幹）
 大山 敏 氏（全国公民科・社会科教育研究会会長）
- コーディネーター 沖山 栄一 氏（東京都公民科・社会科教育研究会会長）
- 分科会報告
- 「公共」「倫理」に関する分科会
 外側 淳久 先生（東京都立駒場高等学校）
 稲吉 徹 先生（愛知県立安城高等学校）
- 「公共」「政治・経済」に関する分科会
 竹達 健頭 先生（東京都立小平西高等学校）
 金澤 みなみ 先生（埼玉県立鴻巣高等学校）

【研究大会の成果】

3年ぶりの対面での開催となった（オンラインも併用）本研究大会は、合計約100名の参加者のもと、盛会に終わった。

1日目は与良氏による主権者教育の在り方に関する記念講演から始まり、分科会ではコロナ禍における指導の工夫を含め、新学習指導要領を踏まえた指導方法が提起され、会場（及びオンライン上）からも活発な議論が行われた。また、樋口先生による講演では、観点別評価を意識した今後の評価の在り方に関する内容が扱われた。

2日目は教科調査官講話に続き、教育界にとどまらないシンポジストによる「18歳」をテーマとしたシンポジウムを開催した。

高校教員だけでなく、中学校教員や教育関係者等、多くの参加者にとって有意義な研究大会となった。



全国研究大会当日の様子

<連絡先>

団体名		東京都公民科・社会科教育研究会
代表者	所属	東京都立世田谷泉高等学校
	職 氏名	統括校長 沖山 栄一
	連絡先	03-3300-6131
事務局	所属	東京都立蒲田高等学校
	職 氏名	主幹教諭 浅川 貴広
	連絡先	03-3737-1331

研究主題 高等学校公民科「倫理」「公共」に関する教員の指導力の向上

I 団体の概要

当研究会は、東京都の高等学校公民科の教員を中心に、その他の教科や校種の教員、大学生、大学院生、他県の教員等にも開かれた、自主的に集い主体的に研究を行う団体である。なお、会の維持運営と発展のために今年度は、役員は14名、事務は15名が担当している。（役員と事務局の重複者あり。）

II 研究の目的

当研究会は、「倫理」や「公共」などの学習内容の研究とそれらの指導方法、授業方法、評価方法の研究、それに参加者同士での課題や研究成果の共有化等を主な目的としている。

III 研究の方法

(1) 研究例会（年3回1、2、3学期に開催）

公開授業（2学期「多面的・多角的な考察と動物の尊厳について」）・研究発表とその協議・講演（1学期「現代科学・技術と倫理」、2学期「バイオ・情報テクノロジー革命時代に『倫理』をどう考えるか」）を実施し、指導内容の知見を広げ、授業技術向上に活かす。「公共の扉」の研究発表や教科書、資料集の比較検討、哲学対話の研修、観点別評価の実践研究など、より多くの参加者を見込んだ研究例会を実施する。

(2) 研究協議会（年2回夏季及び冬季に開催）

原典訳書、哲学・倫理分野を主とする入門書・研究書の輪読を通じて指導内容に関する知見を深める（夏季課題図書：鈴木大拙『禅と日本文化』、冬季課題図書：ニーチェ『反時代的考察』第3篇「教育者としてのショーペンハウアー」）。

(3) 新たな出版物に向けての「公共」「倫理」の事例研究

「新科目『公共』『公共の扉』をひらく授業事例集」の掲載事例について検証を継続しつつ、新たな出版物の執筆、編集、発行に向けて研究する。

(4) 事務局と連携した研究部体制の再構築

研究例会や研究協議会の開催にあたっては、事務局との連携を図りつつ、研究部内で担当と副担当をそれぞれ充て、協力体制をつくり、研究活動を持続発展させていく。

(5) 全国組織、他教育研究団体、各大学等との交流

今後の研究活動の充実を図り、研究団体としての社会への発信力を高めるためにも、会員相互の情報共有を進め、関連教育研究団体・学会・大学等との意思疎通を密にし、交流を深める。

(6) 研究紀要の発行

1年間の研究活動とその成果、課題等をまとめ、発表する。また「都立高校公民科教員調査」から分析された課題に対応するために専門家と連携したり、会員による定期的な検討の場を提供したりしていく。

IV これまでの研究の主な内容

第1回研究例会の講演、村上陽一郎東京大学名誉教授による「現代科学・技術と倫理」

科学と技術は全く異なる営みであったという。科学は自然の謎を解きたいという好奇心によって発展してきた一方、技術は直接に人や社会の役に立つもので、徒弟制度の中で伝達されてきたものであるが、学校制度の中で横の広がりをもつようになった。技術者たちが作った協会では当初から社会的倫理的責任が自覚されていたが、科学者たちの学会でのそれらの自覚はかなり遅れたものであった。

20世紀に入って科学の成果が技術開発に直接つながっていった。例えばナイロンの発明やマンハッタン計画など。マンハッタン計画の責任者ブッシュは、政府は研究にお金を出すが口は出すな、また短期的な成果を目指す、ということが書かれたレポートをトルーマンに提出した。そしてその結果として、広島、長崎の悲劇が起きた。その後のパグウォッシュ会議では、政治家は責任を負うが研究者は責任を取り切れないと考える現実派が主流となっていく。

20世紀後半なるとアシロマで開かれた分子生物学者たちの会議で、大腸菌の扱いの責任について、研究に素人の弁護士も入り議論された。また、研究機関の中に設けられた IRB という委員会は、専門家以外の人たちも参加して研究に制約を設けた。そこでは科学研究は倫理的、法的、社会的な議論をすることが前提という問題意識がはっきりしてきた。さらにいろいろな人たちによる参加型の技術評価が欧米や日本で行われてきている。そのようなことが活発に行われるには普通の人間が普通の常識を持っている必要がある。健全な常識をもって科学や技術の在り方の議論に参加していく社会が求められている。

V これまでの研究成果と課題

講演を通して、科学と技術は、専門家だけに任せたり、短期的な成果のみを求めたりする姿勢は、人の道を誤る可能性が高いことを意味していると言えよう。また多くの人たちによる参加型の議論に求められるのは、常識であるということも明確になった。そこで健全な常識や良識をもつにはどうしたらいいのだろうかという課題が浮き彫りになる。講師による質問者への回答の中に、道徳は家庭の中で育むものである、高校の倫理ではケーススタディを中心に行うべきではないか、という返答があった。それらは、その課題の解決に示唆を与えてくれるものと考えられる。

VI 今後の研究予定

岡本裕一朗玉川大学名誉教授の講演「バイオ・情報テクノロジー革命時代に「倫理」をどう考えるか」を考察し、読書会においてニーチェ『反時代的考察』『教育者としてのショーペンハウアー』等を考察する。

<連絡先>

団体名		東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会
代表者	所属	東京都立墨田川高等学校
	職 氏名	校長 渡邊 範道
	連絡先	03-3611-2125
事務局	所属	東京都立杉並高等学校
	職 氏名	主任教諭 伊藤 昌彦
	連絡先	03-3391-6530

研究主題 理科の実験実習における安全管理と効果的、効率的な実験実習方法について

I 団体の概要

「理科の実習助手にも研修する機会がほしい」と希望する有志により、平成 11（1999）年 3 月 12 日に都立蔵前工業高等学校にて第 1 回講習会と総会が開かれ、『東京都高等学校科学教育研究会』が発足した。都立高等学校で勤務する理科の実習助手が主体となって活動しており、平成 26（2014）年度に東京都教育委員会研究推進団体の認定を受け、現在に至る。

主に、理科の実験実習を安全に効果的・効率的に行うため、実験の準備・方法等の研究協議や、理科実習助手の資質の向上を図るため、科学教育関連の講演や施設の見学会を計画し開催している。

また、これらの研究会活動を東京都教育課題研究発表会にて展示発表したり、隔年に 1 度発行する会報にて報告したりしている。

II 研究の内容

第 1 回研究協議会

開催日：令和 4 年 7 月 4 日（月）

会場：都立八王子東高等学校

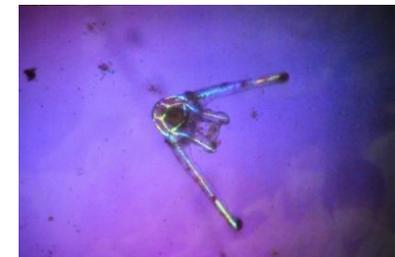
テーマ

『教材生物の維持とその教材の活用法』

教材生物の維持方法とそれをういた実験の実践例（顕微鏡による観察等）



ゾウリムシ（食胞観察）



ウニの幼生



複数のモニター・映像分配器・暗視野装置などが活用されている演示環境



生徒実験用に準備された BOX コンテナ



ミカツキモ
(スマートフォンで接写)

第2回研究協議会

開催日：令和4年12月2日（金）

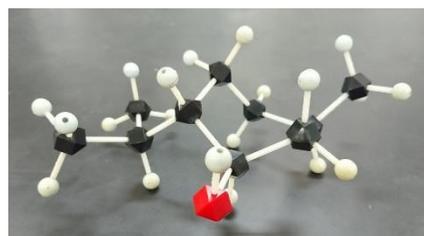
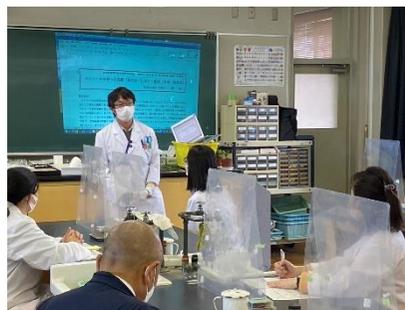
会場：都立富士高等学校

テーマ

『メントールの教材化と その生徒実験について』

ハッカの香り成分、

メントール結晶を用いた生徒実験



メントール（分子模型）



メントール結晶



- ・分子模型の作成
- ・加熱してみる
- ・水に溶ける？
- ・昇華させてみる
- ・におい（香り）の体験
- ・融点測定
- ・有機溶媒に溶ける？
- ・旋光度の観察

Ⅲ 成果と今後の活動

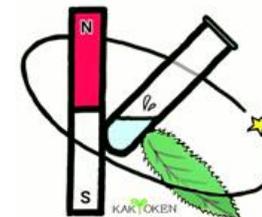
今年度も研究協議会を開催し、実習・実験を支える者としての知識と技術の向上を図ることができた。また実習助手の他に、実習支援専門員、教諭等の参加もあった。

研究協議会の企画検討・会の運営については、事務局会議や運営委員会を対面とオンライン併用することで、広い意見を集約し運営に生かすことができた。

3月に第3回研究協議会を計画している。また、今年度末には研究会活動報告として会報誌を発行する予定である。

Ⅳ 団体の取組

研究会の活動報告として、会報誌をこれまで第12号まで発行し頒布している。



<連絡先>

団体名		東京都高等学校科学教育研究会
代表者	所属	東京都立保谷高等学校
	職 氏名	副校長 加藤 武
	連絡先	042-422-3223
事務局	所属	東京都立大泉高等学校
	職 氏名	専修実習助手 仲川 由美
	連絡先	03-3924-0318

研究主題 東京都における物理・化学・地学教育の推進・発展

東京都における若手教員への教育実践等の継承、東京都における物理・化学・地学教員の研修の機会の設定

I 団体の概要

東京都内の高等学校（都立・国立・私立）の理科教員のうち加盟を希望する者で構成される組織で、理科（物理・化学・地学）に関する教育実践、研究、後援を行う教育研究団体である。

II 令和4年度 専門委員発表テーマと研究概要

【物理専門委員】「やってみたい物理の授業と実験」

「やってみたい物理の授業と実験」というテーマの下、「授業研究」と「教材研究」の2本柱で「物理基礎」及び「物理」の授業において生徒の理解を助ける教材の開発や、既存の教材・実験の効果的な授業への導入などを研究し実践してきた。昨今ではスマートフォンを活用している生徒も多く、実験等で使用できるアプリの開発も進んでいるため、それらを活用して授業構成を試みるなど、新しい技術も積極的に取り入れようとしている。

本年度は2年任期の1年目の年に当たる。年間12回程度の活動を目標としており、専門委員もベテランから若手までがそろっているため、それぞれの視点で日々研究を進め、定期的に定例会で協議している。

【化学専門委員】「生活と化学」及び化学の授業における探究的な化学実験の開発と実践」

「生活と化学」をメインテーマとし、日常生活における様々な事象について化学的にとらえて生徒に理解を深めさせるための実験を開発し、「化学基礎」及び「化学」での学習事項と日常生活の乖離を埋めることを図るとともに、今年度から始まった新学習指導要領のねらいに即した探究的な化学実験の開発と実践を進めた。

今年度は、本研究3年目のまとめの年度であり、コロナ禍の続く中ではあったが、年間約15回程度の定例会において、実験の検討及び研究協議を行い、委員同士で多角的に研究内容の改善を図ってきた。

【地学専門委員】「地学でのWeb地理の活用」「地学巡検の実践」

コロナ禍でオンライン学習が求められる中でも、機種などの利用環境に依存せずにインターネット、ブラウザ上で実施が可能な地学の学習及びコロナ禍をはじめとする様々な困難な環境下であっても、地学にとって重要な地学巡検の継続を模索する試みを検討・研究した。

III 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

- ・研究発表大会（物理・化学・地学）の募集及び主催（12月）
- ・専門委員会（物理・化学・地学）における研究（原則月1回）及び発表（1月）

IV 取組の内容

- ① 全国理科教育大会（8月）への参加・発表
- ② 次世代物理教育研究会（SPN），次世代化学教育研究会（SCN）
（原則月1回）
- ③ 外部講師などによる実験実技講習会（物理8月、化学10月、地学7月）
- ④ 研究発表大会（12月）
- ⑤ 専門委員発表会（1月）
- ⑥ 研究発表集録の発行（3月）

V 成果

- ① 全国の先生方との交流・情報共有を行った。
- ② 若手の先生方への教育技術の継承を行った。
- ③ 先生方の専門性を深め、知見を広げることができた。

VI 12/3（土）個人発表題目

<物理分野3件>

- ・交流について
- ・スリットライトの紹介
- ・続・重量計（フォースメーター）とこれを用いた実験

<化学分野5件>

- ・資料集のデータを使った考える授業展開ーナトリウムの工業的製法の装置の形状を考えさせるー
- ・生徒実験や実験室における牛乳パックを用いた小さな工夫
- ・実験で理解する理論化学～酸化還元反応編 その2～
- ・中高の接続を意識した生徒の疑問から仮説を設定させる指導法の研究

- 化学変化の量的関係における指導計画の提案 -

- ・クスノキから樟脳を分離する実験の工夫Ⅱ

<地学分野1件>

- ・地学分野の活動と今後の展望について

地学分野が都理研に合流した経緯は、令和3年度都理研研究集録に「都立高等学校から地学の灯を消さないために」という題名で誌上報告した。今回は同報告に加え、その後の地学分野の活動と今後の展望について報告する。

VII 課題

- ・理科(物理、化学、地学)教育についての研修を実施する機会の確保
- ・退職者の増加に伴う、若手教員への教育技術等への継承
- ・新規採用者等、若手教員への幅広いアプローチ

<連絡先>

団体名		東京都理化教育研究会
代表者	所属	東京都立南葛飾高等学校
	職 氏名	校長 伊達崎 広
	連絡先	03-3691-8476
事務局	所属	東京都立江戸川高等学校
	職 氏名	主任教諭 田中 志乃
	連絡先	03-3651-0297

研究主題 主体的・対話的で深い学びへとつながる、授業で行う探究活動の指導法の研究及びその評価について ～令和4年度東京都生物教育研究会活動について～

I 東京都生物教育研究会

団体の概要 東京都の高等学校の教員を中心に、823名の会員からなり、生物教育の充実を図るとともに、教員相互の情報交換を密にするため、支部・総務部・編集部・研究部・委員会に組織を分担し、活動している。総会と教職員研修センターとの連携研修を年に1回、研究部の研修会を毎月1回、各支部の研修会を年に2回、教材開発委員会・生態学教育委員会・海洋生物研究委員会・教育課程委員会・社会連携委員会の各委員会主催の研修会を年に2回程実施しており、活動記録は都生研会誌として発行している。また、毎年、日本生物教育会や日本生物教育学会等における全国大会での発表を行うとともに、全国の生物教育研究会との連携も定期的に行い、日本の生物教育の向上を目指して活動している。

研究の目的 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、理科の見方・考え方を働かせた探究活動の指導力、多様な校種及び生徒の実態に合わせた展開・汎用力を向上させる。また、その評価について研究する。

研究の内容 教材開発、フィールド調査、実験講習、研究協議会等、年間20回以上の研修会企画、大学や国立科学博物館などの研究機関との連携による教材開発、高大連携研修、及び最新研究講演会の開催をとおして、教員の指導力向上につなげる。

研究の方法 研修会実施後に参加アンケート、研修評価及び協力いただける方の研修後の追跡調査を行った。

II 団体の取組

- 【総会】 7/9 総会 記念講演会「アミノ酸シグナルとインスリン様シグナル」高橋伸一郎氏(東京大学教授) (32名)
- 【1、2支部】 9/18 支部研究協議会「成城学園杉の森館 恐竜・化石ギャラリー」の見学と研究協議会
- 2/11 支部研究協議会「生物部交流会」
- 【3、4支部】 6/25 支部総会兼研究協議会「日本生物教育会第106回全国大会アンコール発表会」
- 2/12 支部研究協議会「野鳥観察会」
- 【5、6支部】 6/16 支部総会兼研究協議会「ICTの活用・観点別評価について」
- 8/24 支部研究協議会「PCR法実験」についての研究協議会
- 11/25 支部研究協議会「メダカの映像解析のコツと実際と可能性」についての研究協議会
- 3/30 支部研究協議会「都心の学校でもできる生物観察」
- 【多摩支部】 6/4 南北支部総会兼研究協議会「稲城長沼の水田の生物観察」
- 9/23 南北支部研究協議会「秋の鳴く虫の観察と教材化」についての研究協議会
- 11/27 南北支部研究協議会「八国山での野鳥観察」についての研究協議会
- 1/14 南北支部研究協議会「冬の多摩川中流域の野鳥観察と研究協議会」
- 【研究部】・研究協議会
- 5/5 第2回「高尾山での夏鳥観察」
- 5/6 第3回「探究における研究倫理・生命倫理」
- 5/15 第4回「真鶴での磯観察」
- 5/20 第5回「新学習指導要領における生物基礎の観点別評価」
- 6/5 第6回「高尾山での初夏の植物観察」
- 6/16 第7回「フタの頭部を用いた脳、眼球、内耳の観察」
- 8/26 第8回「植物ホルモンを扱ったカルス作成」
- 9/29 第9回「カイコの幼虫の行動観察及び形態観察」教材開発委員共催
- 10/1 第10回「教材生物の維持方法及び活用方法」教材開発委員共催
- 10/6、11/10 第11回「大学入試問題の「思考力、判断力、表現力」及び「探究」問題の考査試験への活用」
- 10/23 第12回「高尾山でのフナ科の種子観察」
- 10/25 第13回「『植物の環境応答』の授業構成と実験を考える」
- 11/20 第15回「高尾山での落葉樹観察」
- 12/17 第16回「高尾山でのシダ・ムササビ観察」
- 1/20 第17回「フタの肝臓・心臓・腎臓の観察」
- 2/10 第18回「染色試薬の作成、条件検討、染色標本の観察」
- 2/18 共通テスト分析会
- ・生態学教育研究委員会
- 6/26 「国立科学博物館附属自然教育園で学ぶ植生遷移」
- ・教材開発委員会 春、秋のカイコ配布活動、第9回、第10回研究協議会にて共催
- ・海洋生物研究委員会
- 5/1 「磯の生物観察会の指導法(初心者対象)」
- 5/29 「猿島(東京湾無人島)の海洋生物観察」
- 7/17 「多摩川河口干潟の生物多様性」
- 10/29 「私たちの食べている魚介類は、どこからきてどこへ行くのか？」
- ・社会連携委員会
- 1/21 「気候変動とこれからの生物学」
- ・教育課程委員会 3月までに実践の予定
- 【連携研修】 8/25 連携研修 専門性向上研修「理科Ⅰ」第1回(29名) 黒川信氏(東京立大学准教授)
- 11/17 連携研修 専門性向上研修「理科Ⅰ」第2回(18名) 授業実践発表
- 【全国大会】
- ・令和4年度日本生物教育会第76回全国大会北海道大会
- ・令和6年度日本生物教育会第78回全国大会東京大会準備委員会の開催
- 4/23 第6回(対面開催)、8/28 第7回オンライン、10/8 第8回(対面開催)、12/10 第9回(対面開催)
- 7/22~24大島宿泊研修、8/10~12三宅島宿泊研修、8/25~26檜原村宿泊研修
- ・4/22 「日本生物教育会第75回全国大会口頭発表都生研アンコール発表会」についての研究協議
- 【合同開催】 12/3 令和4年度東京都生物教育研究会・東京都理化教育研究会共催 研究発表会

Ⅲ 実践事例

○連携研修 専門性向上研修理科 I

第1回では神経生物学及び神経生理学の講義と、ザリガニのハサミの開閉筋に電気を流し、筋肉と電気と運動の関係についての実験講習を行った。第2回では、神経生物学分野の観察・実験授業とその評価方法について授業実践発表を行った。授業で行ったカキの心臓を用いた観察・実験を行った後、各参加者が第1回受講後に作成した学習指導案を基に研究協議を行った。

○都生研研修会

令和4年度は、観察・実験手技の実践練習及び探究指導や評価方法についてなどの研究協議を計40回の研究協議会を開催し、計489名が参加した。

○令和6年度日本生物教育会全国大会東京大会準備委員会

全国大会で行う実験講習及び現地研修開催に向けて、大学教員とオンライン又は実験講習研修会を開催するなど研究協議会を行った。東京都内の島や奥多摩、高尾山などへのフィールド調査を通し、研究協議会を行った。



Ⅳ 研究の成果と課題(まとめ)

研究の成果

○連携研修 専門性向上研修理科 I

第1回：中高でも共通する学習内容について専門的な知識や最新の知見を学ぶことができた。また、物理と科目横断的な実験を通して、探究的な実験方法について実践を通し、生徒への探究指導について研究協議を行えた。

第2回：各参加者が作成した学習指導案を基に、授業に取り組む際の課題や評価方法について研究協議の議論が盛んであった。観察・実験までの取組は難しくとも、動画や資料の提供で探究的取組も可能であることを知ったことで、前向きに授業に探究要素を取り入れようと思直した参加者も多かった。

○都生研研修会について

観察・実験手技の実践練習及び研究協議後、参加者の多くが実際に授業で実践したいと回答した。また「主体的に学習に取り組む態度」についての実践例を通して研究協議を行った後では、参加者の多くが評価方法の参考になったと回答した。探究指導及び評価方法の研究協議に参加した中から、自校でキャリアと探究及び評価を関連付けた実践を行い、研究発表会にて実践例を発表する教員もいた。

実践紹介や研究協議によって、研修内容についての知識・理解が深まった 平均 3.78
今後、研修の成果を活かそうと思っている 平均 3.74

(研究協議会参加者にとったアンケートを4点満点で集計したものである)

○令和6年度日本生物教育会全国大会東京大会準備委員会について

東京都内の島や奥多摩、高尾山などへのフィールド調査を通し、参加者の多くが生態系の探究的活動に積極的に取組もうと思ったと回答した。実際に生徒を引率して校外学習の自然調査につなげた教員もいた。また大学の教員との実験講習の打合せをきっかけに、実際に研究室訪問を企画し他教員もいた。

今後の課題 観察・実験を授業に取入れることが難しい学校に向けた、探究的授業の取り組み方についても今後実践していきたい。また「主体的に学習に取り組む態度」についての評価方法について不安のある教員が多くいることが分かった。今後も引き続き探究指導法、実験講習、評価方法などの研修会を開催していく。

<連絡先>

団体名		東京都生物教育研究会
代表者	所属	都立浅草高等学校
	職氏名	校長 内田 隆志
	連絡先	03-3874-3183
事務局	所属	都立小石川中等教育学校
	職氏名	教諭 佐野 寛子
	連絡先	03-3946-7171

研究主題 東京都の現状を考察し、心身の健康をさらに高める保健体育授業の創造 ～定時制高校の実態に合わせた授業の工夫～

I 本研究会の概要

1969(昭和44)年に本研究会は設立された。組織構成は、事務局に経理部、庶務部、行事部の3つの部署、研究局に体育部、保健部、定通部(定時制・通信制部)の3つの部署を置き、さらに行事部の中に専門委員会として舞踊研究委員会、スキー研究委員会、テニス委員会を置いている。その他に全都を10の支部に分け、支部組織としている。研究局の3つの部と行事部の2つの研究委員会が継続的に研究活動を行っており、定期的に関東地区高等学校保健体育研究大会で発表している。令和3年度は山梨大会において、体育部とスキー研究委員会が発表(配信)した。本年度は神奈川大会において、保健部と定通部が発表し、定通部の研究を報告する。

II 研究の経緯と目的

定通部では各学校の生徒の現状や体育の授業での課題などを情報共有し、それらを解決するための研究を行っている。また、長期休業中には実技研修を行い、教材・教具の工夫や練習メニューについて情報共有を図っている。平成30年度関東地区高等学校保健体育研究大会で「多様化する学校や生徒への授業工夫 ～Before After～」を発表した。学校も生徒も多様化している中で、どのように授業を工夫すれば課題が解決できるか研究した。本研究は上記を発表した際に挙げた課題を中心に主題を設定した。本研究の目的は、変化した生徒の実態に合わせどのような工夫が必要か具体的に探ることである。

III 研究の方法・内容

研究の方法は、まず各学校の現状を把握してその情報を共有する。次に実際の授業で工夫したもののなかで良かったものを集約する。それをもとに分析するという方法にした。

現状の把握

1 生徒の実態と課題

- (1) 不登校を経験した生徒
- (2) 運動能力や理解力に課題がある生徒
- (3) コミュニケーションをとることが苦手な生徒

【課題】・指導の効果を上げることが難しい

2 定時制の実態と課題

- (1) 少人数
- (2) できる生徒とできない生徒の二極化
- (3) 運動が好きな生徒と苦手な生徒の二極化

【課題】・集団スポーツを取り入れることが困難
・楽しい授業のためにはかなりの工夫が必要

少人数でできる授業の工夫、技能差がある場合でも楽しめる授業の工夫について、園芸高等学校、砂川高等学校、桜町高等学校の実践事例をいくつかピックアップして紹介する。

IV 実践事例

(1) ベースボール

【用具の工夫】室内、ソフトバレーボール、ティースタンド

【ルール of 工夫】塁間は13m、打者走者が進塁すると得点、最大2周、1回の打席で8点まで得点可能、守備は4人から3人、ボールを2人で持ち、打者走者の前の塁を踏むとアウト。

【メリット】ボールが柔らかいのでボールへの恐怖感を無くすことができ、女子だけでも安全に楽しく実践することができる。

(2) 卓球

【用具の工夫】A4用紙

【ルール of 工夫】NGゾーンを設定する。苦手な人の陣地にA4用紙を置き、相手の打ったボールがNGゾーンに触れると苦手な人の得点。

【メリット】点差や勝敗に応じてNGゾーンの枚数を調整し、得意な生徒も苦手な生徒も楽しむことができる。

(3) バレーボール

【ルール of 工夫】2本目キャッチOK。経験者2人 vs 未経験者4人。

①経験者チームから下投げで未経験者チームへサーブをする。

②未経験者チームはボールをレシーブし、セッターにあげる。

③2本目はキャッチできる。キャッチした場合、その場から手投げでトスをする。

④スパイクをする。

【メリット】スパイク練習につながる。運動量を確保できる。

尚、詳細については東京都立園芸高等学校 教諭 古賀 拓也
電話 03-3705-2154 までお問い合わせください。

V 研究のまとめ

それぞれの工夫の共通点は以下のとおりである。

①少人数で実施可能。

②運動が得意な生徒も苦手な生徒も思い切りプレーできる。

③練習や工夫したルールの目的が明確になっており、生徒が練習の意図を意識して取り組むことができる。

このポイントをおさえて授業をつくっていくことが大切であると考える。

今回の実践事例に挙げた授業の工夫や研究が、初任校や異動2校目で定時制高校へ赴任した若手教員の参考になれば幸いである。今後も定通部で授業の研鑽を行い、定時制、通信制の保健体育授業の発展に貢献できるよう努力していく。

<追伸>ともに授業の研究をしていく仲間を求めています。定時制・通信制の先生方は、是非、園芸高校・古賀あて、または下記までご連絡ください。

<連絡先>

団体名		東京都高等学校保健体育研究会
代表者	所属	千代田区立九段中等教育学校
	職 氏名	統括校長 野村 公郎
	連絡先	03-3263-7190
事務局	所属	千代田区立九段中等教育学校
	職 氏名	主任教諭 長谷川 浩
	連絡先	03-3263-7190

研究主題 スピーチ、ディベート、プレイ等のコンテストを通じたコミュニケーション能力の向上

団体の概要

東京都高等学校英語教育の振興を図ることを主な目的とし、英語教育上の研究及び講習会の開催、並びに生徒の行う研究・発表(スピーチコンテスト、ディベートコンテスト、プレイコンテスト等)の支援を行う。

I The 58th ENGLISH SPEECH CONTEST

TIME: 9:50 a.m., Monday, October 10, 2022

PLACE: Tokyo Metropolitan Bunkyo Senior High School

SPEECH CONTEST [Part 1]

- 1) My Peace (Ome SHS)
- 2) Ethical Foods (Hibiya SHS)
- 3) The Importance of Skin Care (Tama SHS of Science and Technology)
- 4) Making Our School a Safer Place (Adachi SHS)
- 5) A Small Step to Be a Good Leader (Mitaka Secondary School)
- 6) Beauty Standards (Hiroogakuen Koishikawa SHS)
- 7) Microaggression Around Us (Tachikawa SHS)
- 8) What is “normal”? (Kodaira SHS)
- 9) We are all different and we are all wonderful. (Ueno SHS)
- 10) Is Studying Abroad Good or Bad? (Dalton Tokyo SHS)
- 11) The Way I Understand Myself (Kokusai SHS)
- 12) The Power of Language (Fussa SHS)
- 13) The Significance of Studying at School (Ryogoku SHS)
- 14) Different by Design (Denenchofu Futaba SHS)
- 15) The Power of Gratitude and Apology (Koishikawa Secondary School)
- 16) About International Development (Chihaya SHS)

PRIZES: [Part1]

- 1st Prize: Different by Design
2nd Prize: Is Studying Abroad Good or Bad?
3rd Prize: The Power of Gratitude and Apology

SPEECH CONTEST [Part 2]

- 1) Do you want a child in the future? (Bunkyo SHS)
- 2) Lessons Learnt in Canada (Mitaka Secondary School)
- 3) Racism (Chihaya SHS)
- 4) Confidence in the Face of Loneliness (Tagara SHS)
- 5) Spaceship Earth (Hibiya SHS)
- 6) A Reason for Being (Adachihigashi SHS)
- 7) The Power of Praise (Denenchofu Futaba SHS)
- 8) CLIMATE CRISIS IS NOT CLICHE!! (Kokusai SHS)

PRIZES: [Part2]

- 1st Prize: CLIMATE CRISIS IS NOT CLICHE!!
2nd Prize: Racism
3rd Prize: The Power of Praise
Judges: Associate Professor Takeshi HAYASHI
(Yokohama College of Commerce)
Ms. Rhonda TEZUKA (Reach English School)
Ms. Sakiko TANAKA (Tokyo Metropolitan Board of Education)

令和4年10月10日(祝)、都立文京高等学校にて実施した。第1部(出場資格に制限あり)では16名が出場、私立田園調布雙葉高等学校生徒による“Different by Design”が優勝、第2部(制限なし)では8名が出場、都立国際高等学校生徒による“CLIMATE CRISIS IS NOT CLICHE!!”が優勝した。各優勝者は、令和5年2月5日(日)開催の第15回全国高等学校英語スピーチコンテストに東京都代表として参加する予定である。

II The 73rd ENGLISH PLAY CONTEST

TIME: 9:35 a.m., Saturday, November 19, 2022

PLACE: Shirayuri Gakuen Junior and Senior High School

PERFORMANCES:

1) The Moment (Shirayuri Gakuen Junior and Senior High School)

Six high school students were trying to put on a dance show at the school festival, but they couldn't make it happen because of the COVID-19 pandemic. Ten years later, they got back together and decided to make the dance show a reality. However, practicing isn't as easy as it was when they were students. Will they be able to overcome the obstacles in their way to make their dream come true and have their moment to shine?

2) Cinderella (Tokyo Metropolitan Kokusai High School)

After losing her father, Cinderella lived in poverty with her stepmother and stepsisters. Meanwhile, she received an invitation to the ball from the royal castle and...

3) Mamma Mia! (Shoei Girls' Junior and Senior High School)

The twenty-year-old bride-to-be Sophie finds out by reading her mother's diary that three men, Sam Carmichael, Harry Bright, or Bill Anderson might be her long-lost father. Dreaming of having her father walk down the aisle with her at her wedding, Sophie sends wedding invitations to the three men, pretending to be her mother Donna. Sophie believes that she will immediately recognize her father out of the trio ... but can she?

4) A Week Away (Toho Girls' Junior and Senior High School)

With nowhere left to go, Will Hawkins finds himself at camp for the first time. His instinct is to run, but he finds a friend, a father figure, and even a girl who awakens his heart. Most of all, he finally finds a home.

PRIZES:

1st Prize: The Moment (Shirayuri Gakuen Junior and Senior High School)

2nd Prize: Cinderella (Tokyo Metropolitan Kokusai High School)

令和4年11月19日(土)、都立両国高等学校において、私立白百合学院高等学校、都立国際高等学校、私立頌栄女子学院高等学校、私立桐朋女子高等学校の4校により演劇が披露され、私立白百合学院高等学校による“The Moment”が優勝した。

III The 25th ENGLISH DEBATE CONTEST

TIME: 1:30 p.m., Monday, October 10, 2022 [Final]

PLACE: Tokyo Metropolitan Bunkyo Senior High School [Final]

RESOLVED: That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems.

PARTICIPANTS [Preliminary Rounds]:

Tokyo Metropolitan Koishikawa Secondary School

Shibuya High School

Tokyo Metropolitan Tagara Senior High School

Senior High School at Komaba, University of Tsukuba

PARTICIPANTS [Final Round]:

Affirmative Side (Shinagawa Joshi Gakuin Senior High School)

Negative Side (Mita International School)

WINNER: Shinagawa Joshi Gakuin Senior High School

令和4年10月2日(日)に予選を6校で行い、10月10日(祝)の決勝では私立品川女子学院高等部と私立三田国際学園高等学校とが“‘That the Japanese Government should abolish the mandatory retirement age systems.’”を論題に討論し、肯定側の品川女子学院高等部が勝利した。

<連絡先>

団体名		東京都高等学校英語教育研究会
代表者	所属	東京都立飛鳥高等学校
	職氏名	校長 堀江 敏彦
	連絡先	03-3913-5071
事務局	所属	東京都立農産高等学校
	職氏名	副校長 瀬田 栄治
	連絡先	03-3602-2865

研究主題 新科目「情報Ⅰ」に対応した情報科教員の資質向上

I 団体の概要

1. 目的・趣旨

平成15年度からの高等学校の必修教科「情報」の開始を踏まえ、東京都内の高等学校等での情報教育を向上すること、東京都内の高等学校における情報教育を研究・推進する目的で設置された。

高等学校に限らず、東京都内のさまざまな学校で情報教育に関わる方々と共に研究活動を展開することも視野に入れて活動している。また、教員に限らず、大学や専門学校等で情報教育を志す学生の方々にも参加していただいている。

主な活動としては、教科「情報」に関する研究、各教科等での情報活用に関する研究、学校教育の情報化に関する研究などがある。

2. 今年度の活動

今年度より、高等学校でも新学習指導要領が学年進行で実施となり、情報科においても従来の「社会と情報」「情報の科学」から、新科目「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に科目が再編された。

特に「情報Ⅰ」については、問題解決、情報デザイン、データの活用、プログラミングなど内容が多岐にわたることに加え、令和7年度実施の大学入学共通テストにおける試験実施が予告されている。この状況に対応できるように情報科教員の資質を向上させる必要がある。

そのため、「情報Ⅰ」についての理解を深めるための研究協議会、各校の教員の実践を持ち寄る情報交換会などを中心に活動した。

II 研究協議会

1. 第1回研究協議会（オンライン）

日付：令和4年6月4日

情報Ⅰについての書籍の著者である神奈川県の情報科教諭を招いて、情報Ⅰの学習のポイントについて話をしていただいた。

情報Ⅰでは問題解決についての学習が重要となるので、先生方には、単元ごとに1つは問題解決の授業を取り入れることをしてほしいということを強調されていて、4月から行っている授業実践を紹介していただいた。

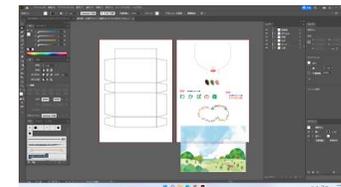
2. 第2回研究協議会

日付：令和4年8月22日

場所：東京都立若葉総合高等学校

前半は情報デザインを念頭に置いたソフトウェアの活用についての講習と「お菓子のパッケージ作成」についての授業実践の紹介があった。

後半はオンラインのフォームと連携した課題提出管理の実践報告と活用についての講習を行った。



Ⅲ 情報交換会

1. 第1回教科「情報」情報交換会（オンライン）

日付：令和4年6月13日

テーマ：どう作る「情報Ⅰ」期末考査！

1学期の期末考査を控えて、大学受験をどの程度意識するのか、どうやって思考力・判断力・表現力を問う問題を作るのか、プログラミングの問題はどのように出題するかなど、活発な意見交換が行われた。



2. 第2回教科「情報」情報交換会（オンライン）

日付：令和4年7月5日

テーマ：「情報Ⅰ」とスマートスクール端末

スマートスクール端末とパソコン教室をどのように使い分けているかなどについて、1学期の実践について情報交換が行われた。

各校の事例の他に、学校全体としてどのように使ってもらうかについても意見交換が行われた。



3. 第3回教科「情報」情報交換会（オンライン）

日付：令和4年10月18日

テーマ：プログラミングどこまでやりますか？

プログラミングの単元の実施を控えて、教える内容の程度や使用するツールについて情報交換が行われた。

タイピングに慣れていない生徒の指導や、授業時数をどの程度確保するかなどについて意見交換が行われた。

Ⅳ 成果と課題

情報科の教員は、大半の学校で1名しか配置されていないため、他校の教員と実践について情報交換を行うことは、資質の向上に大きく貢献している。

先般、大学入試センターより情報Ⅰの試作問題が公開されたこともあり、今後は大学入試への対応も検討しなければならない。

<連絡先>

団体名		東京都高等学校情報教育研究会
代表者	所属	東京都立田園調布高等学校
	職 氏名	校長 福原 利信
	連絡先	03-3750-4346
事務局	所属	東京都立小平高等学校
	職 氏名	指導教諭 小松 一智
	連絡先	042-341-5410

東京都の農業高等学校教育の発展並びに農業教育振興のための会員の指導力向上

I 団体の概要

東京都における農業高等学校教育の発展並びに農業教育の振興のため、教職員の研修の充実を図り、あわせて会員相互の親睦を深めることを目的とする。

●本会は、東京都の農業高等学校の教職員、及びこの会の目的に賛同する者（個人会員）をもって構成している。

●本会は、教職員の授業力向上等を図るため、次の4つの部会を設けている。

- (1) 生物生産部会
- (2) 環境部会
- (3) 資源活用部会
- (4) 教養部会

●本会は、毎年3回総会を開いている。

総会は、原則として4月、8月、1月の長期休業中に開催する。

令和4年度は以下の日程で開催している。

- ・ 4月16日（土）
- ・ 9月3日（土）
- ・ 1月7日（土）

II 研究部会の活動

【生物生産部会】

第1回研修会：果樹の栽培管理

令和4年8月30日（火） 14名参加

第2回研修会：ロボット芝刈機と播種機の使用

令和4年12月2日（金） 15名参加

【環境部会】

第1回研修会：自然環境や動植物の調査手法

令和4年5月28日（土） 22名参加

第2回研修会：刈払機・チェーンソーの取り扱い

令和4年8月25日（木） 12名参加

【資源活用部会】

第1回研修会：味噌の製造実習

令和4年6月25日（土） 10名参加

第2回研修会：農業高校卒業生の現状と課題

令和4年8月26日（金） 20名参加

【教養部会】

第1回研修会：フラワーアレンジメント

令和4年10月13日（木） 10名参加

Ⅲ 活動の様子と総括

【8月30日（火）の生物生産部会の様子】



【8月25日（木）の環境部会の様子】



生物生産部会、環境部会、資源活用部会、教養部会の4部会に分かれ、教員や実習助手の知識や技術を高めるための研修会を年7回実施し、果樹の栽培管理やフラワーアレンジメント等の園芸系分野のみならず、味噌の製造などの食品分野や環境調査などの動物分野に至るまで、幅広く学ぶ機会を得ることができた。また、ロボット芝刈り機の研修を導入し、スマート農業に関する知識や技術を高めることができたため、今後は、IoTやAIを用いた新しい農業教育についても学んでいく。

Ⅳ 総会

- 第1回総会：令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度事業計画・予算計画、令和4年度担当部会確認
令和4年4月16日（土）
- 第2回総会：令和4年度事業計画・予算確認、令和4年度各部会から活動報告
令和4年9月3日（土）
- 第3回総会：令和4年度会務事業報告、令和4年度会計報告（案）、各研究部会発表、第5回全国高等学校農業教育研究協議会伝達講習、講演（ネイバーズファーム川名桂氏）
令和5年1月7日（土）
- ・各回約60名が参加（オンライン含む）
 - ・令和5年度は都立農産高等学校が事務局となる。
- （連絡先：03-3602-2865）

<連絡先>

団体名		東京都農業高等学校教育研究会
代表者	所属	都立園芸高等学校
	職氏名	校長 並川 直人
	連絡先	03-3705-2154
事務局	所属	都立園芸高等学校
	職氏名	主幹教諭 青木 志露和
	連絡先	03-3705-2154

研究主題 地域と連携した起業家教育

－ くにたちをビジネスの教材として活用 －

I 研究の目的

東京都では、平成30年度より商業教育改革として、全ての都立商業高校をビジネス科へ改編し、東京都が作成した補助教材「東京のビジネス」の活用、学校設定科目「ビジネスアイデア」の履修、さらに、外部連携を積極的に行う「課題研究」を推進している。今年度、東京都商業教育研究会の物品販売支援事業を活用して、3年生の課題研究において、地域連携学習として、国立駅改札前に店舗を運営する機会をいただいた。

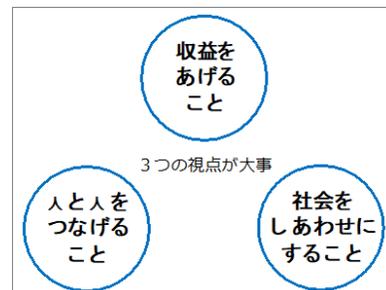
本研究は、第五商業から国立ブランドの価値向上を目指した起業家教育により、地域ビジネスを実践的に学び、ビジネスに関する課題を自ら設定し、その解決を図る学習を深め、産業界が求める創造的な能力や実践的な態度の習得を目指している。

II 研究の方法

1. 科目名 3年生 課題研究 「 起業探究 -五商ショップ- 」
これまで学習した商業科目の知識と技術を活用し、実際に店舗を運営することで、自発的に課題を見つけ、解決する力を身に付ける講座である。
2. 身に付ける力
起業家精神を育みながら、地域社会に積極的に参加する意欲や態度を身に付ける。また、東京都国立市のブランド価値向上という課題をビジネスの視点から考え、課題を解決する力と、全国へ発信する力を養う。

III 研究内容 | 第五商業で地域ビジネスをはじめ

1. ビジネスとは何か考える。
まず、課題研究を始めるに当たって、1年次ビジネス基礎で学んだビジネスに大切な3つの視点について振り返った。
東京のビジネスを学んだ生徒たちだったので、こうしたビジネスの視点について生徒たちの理解が早いと感じた。



2. イベント企画会社として活動する。
この授業をチームとして活動するために、イベント企画会社という想定で1年間活動することにした。これによりチームの目的や目標の達成に向かって、各メンバーが主体的に能力を発揮しながら一丸となるチームを目指す取り組みがしやすいと考えた。
3. チームビルディング
チームの目標の達成に向かって、メンバーが主体的に能力を発揮しながら、一丸となるチームを目指すことでメンバーの性格を理解する。課題研究チームで力を入れてきたことは、近年のビジネスで注目されている「チームビルディング」を学ぶことであった。
4. ヘリウムリングでメンバーを理解
フラフープを人差し指に乗せて離れないようにフラフープを下げる、というシンプルなルールの活動である。指がフラフープから離れていないか、第一関節以外の部分でフラフープを触れてしまった人はいないか注目して、発見した場合は最初の高さまで戻すように促す。
この活動から、生徒たちはうまくいかなかった理由や改善策を話し合い、互いの性格を理解し、認め合おうとする態度が見られた。



ミーティングの様子

【令和4年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都商業教育研究会】

5. 4つの地域連携活動

国立市と北海道松前町について行った事前調査活動では、統計情報システムRESASを活用して、データを分析し、地域の課題を出し合った。

(1) 国立谷保商店街と一橋大学との連携 | フィールドワーク

地元の一橋大学の学生たちが運営しているNPO法人くにたち富士見台人間環境キーステーションは、国立谷保商店街で実店舗の運営を行っている。こちらに協力を仰ぎながら、谷保駅周辺でインタビューを行い、地域の課題を見付けていった。

当日は、教員は引率せず、活動の内容を Teams のチャット機能でリアルタイムに写真とともに報告させた。

(2) 北海道松前高校との連携 | オンライン会議

今回のイベントは、国立市が桜の町とよばれることから「くにたち=桜」のイメージをより多くの人々に定着させることをテーマとした。そこで、百貨店などで絶大のブランド力をほこる北海道のなかで、桜の町として有名な松前町から商品を仕入・販売することを計画した。仕入れにあたっては、地元の高校である、北海道松前高校に協力していただいた。事前にメールなどでやりとりしながら、Teams を活用してオンライン会議を開いて打合せを進めた。



(3) 次年度に向けて | 株式会社美鈴コーヒーと連携したコーヒー開発

次年度も継続して行うために、2年生が中心となって、株式会社美鈴コーヒーと連携してオリジナルブレンドコーヒーを開発した。

生徒たちは夏休みを利用して、コーヒーマイスター3級を取得して、コーヒーに関する基礎知識を習得しながら、商品開発を進めていった。



(4) 国立駅との連携 | 販売活動

令和5年1月21日(土)に、国立駅に相談して、国立駅改札前の催事スペースに、出店することを許可していただいた。出店に関わる契約や出店料の交渉など、生徒たちが数回にわたり国立駅の担当者と打ち合わせながら出店準備を進めていった。

(下図)国立駅に提出した企画書

noronova 国立・国立駅 御中
 令和4年11月28日
 東京都立第五商業高等学校の生徒による販売会
5 & me
 桜づくしフェア - 桜でつながる国立・北海道松前 -
 ■実施概要
 期日 1月21日(土)
 時間 10時00分~17時00分
 場所 noronova 国立(国立駅) 南北連絡路改札会場
 運営 株式会社「R中興業コミュニティデザイン」
 出店者 都立第五商業高校 3年生 課題研究 起業探究チーム
 2年生 課題研究 コミュニティデザイン、ラボチーム
 テーマ 「桜の町 くにたち」のブランド価値を高める
 内容 ① 桜の町 北海道松前町の特産品
 ② 第五商業の生徒たちが昨年開発したメイクブラシ
 ③ 国立谷保で愛されるパン・ド・カンパニョが提供するフルーツサンド
 ④ 美鈴珈琲と共同開発したオリジナルブレンドコーヒー
 ■五商ショップとは
 都立第五商業高等学校がビジネスの体験学習の一環として行う販売会です。生徒が主体となり模擬企業としてイベント準備プランを作成し、取引先との交渉や販売プランニング等の企画運営を体験することを通じ、実社会に貢献できる人材育成を目的としています。
 ■おすすめの商品
 花の松前 手造り松前揚げ フルーツサンド(国産) 多機能メイクブラシ 五商オリジナルブレンドコーヒー
 予定価格1箱1,800円
 生地の中に桜を使った「花の松前」は、桜の香り漂うカステラ
 予定価格115g 840円
 松前産スルメを素材にこだわりの松前産の唐辛子・人参・唐辛子・山椒を加え、サクサクとした食感を追求し、お肉の旨みを引き出す。お肉の旨みを引き出す。お肉の旨みを引き出す。
 予定価格1箱(税込)
 都立谷保商店街にあるベーカリーショップ、パン・ド・カンパニョと共同開発したコーヒーにあり、桜をイメージしたフルーツサンド
 予定価格1本500円
 第五商業高校の先輩が開発したメイクブラシを基盤とし、メイクアップの品質を向上させた5パターンメイクをイメージしたメイクアップキット
 予定価格1本100円
 noronova 国立に提出している、美鈴珈琲と共同開発したオリジナルブレンドコーヒーを飲む人がおいしいと感じる豆をブレンドし、ドリップパックで提供

<連絡先>

団体名		東京都商業教育研究会
代表者	所属	東京都立大田桜台高等学校
	職氏名	校長 石山 智典
	連絡先	03-6303-7980
事務局	所属	東京都立第五商業高等学校
	職氏名	主任教諭 会津 拓也
	連絡先	042-572-0132

東京都高等学校特別活動研究会

研究テーマ 「『新しい生活様式』を踏まえて考える、新たな特別活動のあり方」

I 団体の概要および研究テーマ

A. 団体の概要

特別活動の特質である「望ましい集団活動」の在り方を問い直し、生徒が困難や苦難を乗り越え、仲間とともに生きる目標と、生きる喜びをもつ「強い心」を育むため、特別活動の在り方を研究する。月例会や研究協議会を通して、都立高等学校教師の特別指導における指導力向上を目指し、ホームルーム経営力、生徒理解力の向上を図ることを内容とする。

B. 研究テーマ

「『新しい生活様式』を踏まえて考える、新たな特別活動のあり方」

本研究会においては、高等学校学習指導要領の特別活動について研究を重ねてきた。特別活動で育成を目指す資質・能力である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点を手がかりとして、これらを有機的に関連づけ、明確に区別することなく育成する資質・能力に関わるものとして捉えることが重要だとされている。各都立学校においては、新型コロナウイルス感染症の対策を講じた上で、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等が続けることができるようになってきた。さらに工夫を重ねて授業や特別活動に取り組む工夫を重ねていきたいと考え、令和3年度と同様にテーマを設定した。

II 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

学習指導要領に定められた特別活動のホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の3領域を中心に、都立高等学校の実践的な取組をもとに、事例研究を行う。生徒との関わり方や指導方法について、基調提案・実践報告・講演等を通して、教師同士が学び合う場を設ける。

昨年度（令和3年度）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン形式の開催しかできなかったため、今年度は対面形式の開催方法に戻して実施した。参加者による情報共有や、日頃の指導に活かせる方法について研究協議を重点的に取り組んだ。特に、多くの初任者に参加いただき、「担任になったらどのように対応するか」「行事の担当者として各ホームルームとどのように関わるか」等の意見交換を行った。



Ⅲ 取組の内容、成果、課題

A. 取組の内容

- ①第1回研究協議会（7月8日 東京都立千歳丘高等学校）
 基調提案 「ホームルーム担任の仕事 1日1年」
 実践報告 「初めての担任
 ～「あたりまえ」のことを「あたりまえ」に～」
- ②第2回研究協議会（10月18日 東京都立千歳丘高等学校）
 実践報告 「初めての教員生活＝初めての学級担任」
 実践報告 「園芸高校における学年経営の試み」
- ③東京都教職員研修センターとの連携研修（11月22日）
 （令和4年度専門性向上研修「5411・5412_特別活動【I】」）
 テーマ 「特別活動の基礎・基本—実践発表から学ぶ、
 三つの視点を踏まえた資質・能力の育み方—」
 内容 「特別活動の学習過程の実際」

B. 成果

第1回は20名、第2回は26名の教員等の参加があり、特別活動の実践をもとに、他校の事例や工夫を学ぶことができた。また発表後は、参加者同士の有意義な研究協議となった。

C. 課題

新学習指導要領を基にした実践や研究がまだ不十分である。また、オンライン形式の開催慣れのせいか、対面開催であると参加者が少ない。今後、さらなる参加者の募集の工夫が必要である。

Ⅳ 今後の活動予定

- 第3回研究協議会（1月24日 東京都立千歳丘高等学校）
 第35回東京都高等学校特別活動研究協議大会
 研究報告 「生徒が互いのよさや可能性を発揮して
 よりよい人間関係を築く集団活動を行うための
 指導と評価の充実について」
 実践報告 「ホームルーム担任としての文化祭における指導」
- 3月研究協議会（3月上旬予定、東京都立千歳丘高等学校）
 次年度にホームルーム担任となる教員向けの研究会を開催する予定である。



<連絡先>

団体名		東京都高等学校特別活動研究会
代表者	所属	東京都立千歳丘高等学校
	職 氏名	校長 小原 孝太郎
	連絡先	03-3429-7271
事務局	所属	東京都立武蔵高等学校
	職 氏名	主幹教諭 峯岸 久枝
	連絡先	0422-51-4554

研修主題 生徒が主体的に行う社会貢献活動について ～総文祭、コロナ禍における特色ある活動～

I 団体の概要

本研究会は、平成23年度に教科・科目「奉仕」における授業実践と、「社会の一員の自覚」と「規範意識と社会貢献意識の醸成」等を目的に発足し、11年目を迎えました。

これまで「ボランティア教育」に関心をもつ教育者や、ボランティア関係団体の方々が集まる研究会として活動しています。

令和2年から令和4年前期は、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会（以下、総文祭という）「ボランティア部門」の委員として研究会が関わりました。研究会の公式Webページにて様々な情報発信を行っています。

II 研究の目的

約2年間、本研究会として、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「ボランティア部門」の生徒実行委員会に関わった。ボランティア経験のない生徒たちが、本大会の企画・運営を通して、どのように社会と向き合い、何を学んだか、レガシーとして何を残せるか分析することを研究の目的とした。アンケートを実施し生徒の行動の変容を分析し、研究紀要等で情報を発信しボランティア活動や社会に関わる活動に主体的に取り組む大切さを発信し、広く普及・啓発させる。

また、都立学校における「人間と社会」の体験学習等が、コロナ禍において大きく様変わりしている。「人間と社会」における指導法を学ぶとともに、体験学習の在り方について研究を行い、研究紀要等で広く普及・啓発できるよう、素材集めに努めていく。

III 研究の方法

- ①総文祭、実行委員会（教員）及び生徒実行委員会で、生徒が主体となって取り組める活動を提案、指導していく。その際に、達成感や成就感を育む仕掛けを構築していく。
- ②「人間と社会」において、調査・研究している第一人者を招き、指導法や体験学習についての研修会を企画する。その際に、意見交換をできる場面を作る。
- ③主題に関する情報を、各区市町村ボランティア・市民活動センターや、関係NPOの協力を得ながら収集に努め、月例会等に生かしていく。

IV 研究の内容

- ①総文祭、部門別実行委員会の運営と、生徒が主体的に関われる生徒実行委員会のファシリテートを行う。
- ②総文祭後に生徒実行委員会でアンケートをとり、生徒の変容等を見取り、結果の分析を行い、紀要等で発信していく。
- ③高等学校における「人間と社会」の指導法、コロナ禍等における体験学習の実施方法について、研究を行っている第一人者を招き、講演及び意見交換を通して学ぶ。
- ④1年間の成果を研究紀要にまとめ、都立学校及び本研究会のWebページに掲載する。

V 研究の成果と課題(まとめ)

<成果>

- ①総文祭を滞りなく進行し、フィールドワーク（4分野）内で多くの成果物を得ることができた。
- ②「人間と社会」の研究に携わる大学准教授を講師として招き、研修会を設定できた。
- ③情報共有の場として、本研究会のWebページを更新し、過去3年間の研究紀要（PDF）をアップし、広く都民に普及・啓発できた。



<課題>

- ①ボランティア活動等と探究活動をどのように結び付けていくか、実際に行っている学校等を調査し、情報を得ていく。
- ②奉仕・ボランティア活動の推進者を研究会として育成できる研修会等を検討していく。
- ③特別活動において、ボランティア教育を推進している学校の調査を行い、効果的な指導法等を共有していく。

VI 団体の取組

- ①月1回の月例会を実施するよう、計画している。
- ②年に1回、奉仕・ボランティアに関わるイベント等を企画・運営を行っている。(今年度は、「人間と社会」に関する指導法と体験学習の取組事例に関する研修会)
- ③研究会のWebページで情報の発信を行っている。
- ④年に1度、研究紀要を発行し、都立学校等に配布し、今年度から本研究会Webページでも公表を行っている。

VII 実践事例

今年度は、実践事例として挙げられるものはないが、過去には、認定NPO団体と協力し、東京都教育委員会の後援で、スクールボランティアサミットを開催していた。

また大学准教授を招いての研修会も実施をしている。

研究紀要を作成し、奉仕・ボランティア教育に関する情報の発信を行っている。

研究紀要には、実践事例なども掲載している。本研究会のWebより御覧ください。



(東京都奉仕・ボランティア教育研究会Webページ)

東京都奉仕・ボランティア教育研究会主催
(東京都教育委員会が認定する研究推進団体)

「人間と社会」の調査・研究から分かること

東京大学准教授が、令和3年度より小学校で、令和4年度より中学校で調査実施され、令和4年度より高等学校では、専攻選行調査を行っています。なかでも、特別の調査(定員)や「総合的な学習の時間」(小・中学校)、「総合的な学習の時間」(高等学校)における指導の充実が期待されており、あわせて、社会体験活動などの体験的な学びをとおして、主体的・対話的で深い学びへと、児童生徒を導くことが期待されています。

また、これからの社会をたくましく生きていくための必要知識・能力の育成の方向の一環として、社会に即かした調査研究の実施を目指し、カリキュラム・マネジメント、WELLNESSプログラムなどとして学校での活用が期待されています。

そこで本研究会では、長年、ボランティア学習研究会で、都立高校における都民自衛隊「人間と社会」を研究している、神奈川大学准教授本間生史先生をお招きし、「人間と社会」の事例等を指導いただき、報告し、質疑・応答を含め、二度追加した活動で実践の場を共有してまいります。

〇日時
令和4年12月26日(月) 15:00-16:40
(受付14:45-)

〇講師
東京大学准教授 神奈川大学 3階大規模図書
(〒15-0059 東京都国立区3-1-4-20)
〇開催場所
15:00 集合場所
15:05 開演
16:00 質疑・応答、情報交換等
16:40 閉会挨拶
17:00 会費回収

参加費無料(都立学校の先生は「研修出席」です)

【お申し込み】
お申し込み・連絡先) 〇一応にてお申し込みください
東京都奉仕・ボランティア教育研究会事務局
東京都立赤羽北桜高等学校 本館 2階
お問合わせ電話 03-5948-4390
申し込み先〒 hoshibon@pa11.com

【お申し込み】
お申し込み・連絡先) 〇一応にてお申し込みください
東京都立上野高等学校
お問合わせ電話 03-3821-3706

<連絡先>

団体名		東京都奉仕・ボランティア教育研究会
代表者	所属	東京都立上野高等学校
	職 氏名	統括校長 吉田 寿美
	連絡先	03-3821-3706
事務局	所属	東京都立赤羽北桜高等学校
	職 氏名	主幹教諭 正木 成昭
	連絡先	03-5948-4390

研究主題 新学習指導要領における性に関する指導
～指導内容の検討と実践～

I 団体の概要

昭和50年に、高等学校生徒の性教育の在り方、進め方に関する実践的な研究及び生徒の健全育成に関する研究を行うことを目的として設立された研究会である。保健体育科教員や養護教諭だけでなく、多くの教科の教員も所属し、多面的に研究を行っている。

II 研究の目的

令和4年度より、新学習指導要領が完全実施された。その趣旨を踏まえ、教科・科目、特別活動及び総合的な探究の時間において、性に関する指導を行う上での指導内容の検討及び実践を行う。

III 研究の内容

目的を達成するために以下の項目について研究を行う。

- ・ 研究協議会の開催（調査研究・情報収集・実践事例研究）
- ・ 公開授業の開催
- ・ 講演会及び研修会の実施（最新の知見の習得・指導事例の検討・普及啓発）
- ・ アンケート調査の実施

また、研究結果等を積極的に公開し、普及啓発に努めている。

- ・ 研究会会誌の発行（活動内容の総括・紀要の発行）
- ・ ホームページの公開（URL：<https://www.tokyokouseiken.com/>）
- ・ Twitterは（【@TokyoKouseiken】、<https://twitter.com/TokyoKouseiken>）

Ⅳ 取組と活動状況

1 研究協議会

5/7 (翔陽高校) 6/18 (稔ヶ丘高校) 7/22 (東高校)
 10/1 (翔陽高校) 10/22 (稔ヶ丘高校) 1/14 (東高校)
 3/25 (翔陽高校)

2 講演会・研究協議会

2/25 (稔ヶ丘高校)
 講師：明治大学文学部 准教授 佐々木 掌子 氏
 「多様な性の理解とその指導」

3 公開授業

11/4 (多摩高校) 国語 3年「国語総合」
 「舞姫」の読解を通じた、性と人間関係形成の学習

4 全国大会

8/4～8/5 (日本教育会館)
 テーマ：人間形成を基盤とした性教育をすべての子供たちに

5 役員会

4/23 (オンライン) 5/28 (翔陽高校)
 7/22 (東高校) 9/17 (オンライン)

6 アンケートの実施

性に関する指導について

7 会誌の発行 5/1 「あふるる第13号」



全国性教育研究大会全体会



公開授業 (多摩高校・国語総合)

Ⅴ 成果と課題

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、東京都教育委員会から平成31年3月に改訂された「性教育の手引」を基にし、人権意識や生徒の健康に関する適切な意思決定及び行動選択についての指導方法の検討や公開授業を開催することができた。月1回の研究協議会の定期開催により、新規参加者も増えてきている。

また、今年度は2年ぶりに全国性教育研究大会（第50回記念全国性教育研究大会兼第30回関東甲信越性教育研究大会）が開催され、高等学校分科会での発表を行うことができた。しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延のために、他県や都立高校の情報を得ることが難しく、実践事例の収集や学校訪問への取組が今後の課題である。

<連絡先>

団体名		東京都高等学校性教育研究会
代表者	所属	東京都立翔陽高等学校
	職 氏名	校長 榎 茂喜
	連絡先	042-663-3318
事務局	所属	東京都立東高等学校
	職 氏名	主任教諭 横 史明
	連絡先	03-3644-7176